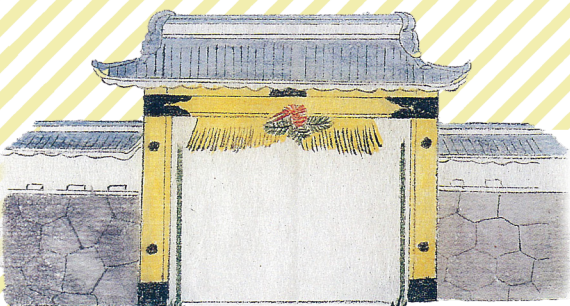


土曜子ども教室

1月のポイント!

大名とお正月



NO.12 要 隆井志年中行事 (名古屋市蓬左文庫蔵) 門松

お正月とは

お正月は、新しい年のお祝いであり、また「年神様」を迎える行事でもあります。昔の習慣では、お正月を迎えるとみんな一緒に一つ年を取りました。お正月は、みんなの「お誕生祝い」の日だったのです。年を取るといふことには、新しい魂を「年神様」から与えられ、生命を蘇らせる意味がありました。

お正月の準備

12月13日、江戸城で「御事納・御煤払」があり、武家や町人でも煤払い、いわゆる大掃除が行われました。正月に神様を迎える準備として、家の中や神棚を清めました。15日を過ぎると、26日頃をピークに餅つきが行われました。昔はそれぞれの家で餅をつき、つき上がった餅はお歳暮として親戚や知人に贈りました。



NO.1 華洛四季遊戯図巻 下巻 (部分) 重要美術品

大名家のお正月

元日 年の始めの挨拶

大名が江戸にいる時は、まず江戸城に行き、将軍に年の始めの挨拶をしました。尾張徳川家は元日の一番、朝早くに江戸城へ行き、挨拶をしました。大名が国元にいるときは、家臣をはじめ商人、僧侶、村役人など国にいるさまざまな人々が大名のいる城に挨拶に来ました。



NO.16 千代田御表 諸侯登城桔梗下馬之図

3日 お謡い初め

平和な世の中が長く続くようにと、おめでたい内容のお能を観みしました。

7日 七草の日 (若菜の節句)

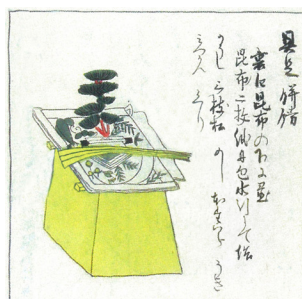
一年の健康を願い、七草がゆを食べます。

七草とは ・せり・なすな・ごぎょう・はこべら
野菜七種類のこと ・ほとけのざ・すずな・すずしろ



11日 具足祝い

鎧・兜や武器を飾って、その前に餅を供えて一年の幸運を祈りました。供えたお餅は、雑煮や汁粉にして食べました。現在の鏡開き・鏡割りはその名残です。



「小笠原家伝書」(名古屋市蓬左文庫蔵)「具足祝い」にそなえる餅飾り

しょうがつ あそ お正月の遊び

徳川美術館には、江戸時代の遊び道具が数多く残されています。大名かるた、羽子板、貝あわせや、琴や三味線などの楽器、その他、将棋盤や碁盤、双六盤があります。さらに、香木の香りを聞き分けて遊ぶ香道具、小型の弓矢の遊び道具である雀小弓、ホッケーやラクロスのようにスティックで球を打つ打球など、さまざまです。



かるた

16世紀にポルトガルから伝わったカード遊びが始まりました。江戸時代には、公家や大名のお姫様の教養を高めるため、百人一首の和歌の上の句と下の句を結びつけるなどのかるたが生まれました。

NO. 24 伊勢物語かるた

ふくわら福笑い

めくくしをして、目・鼻・口などをおいていき、出来上がった顔を笑って楽しめます。「笑う門には福来る」と縁起がよいので、お正月にふさわしい遊びとなりました。

NO. 36 五月十六日土水性の人うけ二入ル
うたがわきだまが 歌川貞房画



NO. 6

随いもんつききさぎょうす は こいた
葵紋付左義長図羽子板



は こいた 羽子板

むろまち し だい ちゅうごく
室町時代に中国から伝わり、羽子板で羽根を打ち合います。

羽根つきの羽根を蚊などを食べてくれるトンボに見立てて、夏に子どもが蚊に刺されないようにとのおまじないであったと伝えられています。でも、年の始めに羽根つきをして、その一年の厄払いをするという意味が込められていたと考えられています。

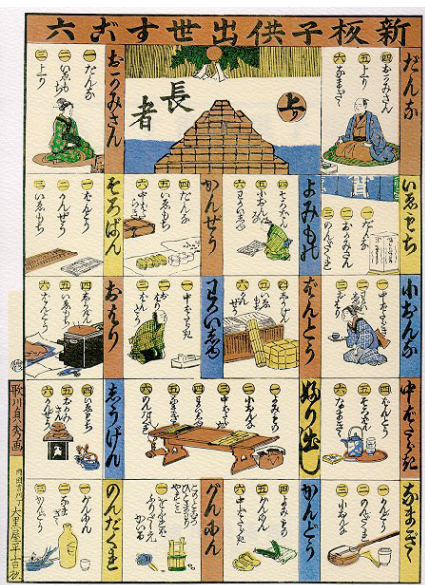
さらに、美しい羽子板を調べて、お正月の贈り物とする風習もあらわれました。

おめでたい神様や福をよぶ郷土の遊び道具

えん ぎ もの 縁起物

すごろく 双六

みなさんが遊ぶ双六は、紙双六といい、大きな紙に区画を施してさまざまな絵を描き、振りだし（スタート）から、上がり（ゴール）までを、サイコロの出た目によって駒を進める遊びです。東海道五十三次の宿場をたどる「道中双六」や身分が次第に上がっていく「出世双六」などがあります。



NO. 35 しんぱんこどもしゅせ 新板子供出世すご六 うたがわきだまが 歌川貞秀画



NO. 43 しちふくじんにんぎょう 七福神人形



徳川美術館
THE TOKUGAWA ART MUSEUM

〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017 TEL052-935-6262
<https://www.tokugawa-art-museum.jp/>